

希望の夜明けを

東日本大震災で被災した宮城県塩釜市の親子ら35人が10日、プロスキーヤーで冒険家の三浦雄一郎さん(78)らとともに富士山頂を目指し、富士宮5合目登山口から登山を始めた。参加者は全員が初の富士登山で、三浦さんが震災後に立ち上げた支援組織「ミウラ・ペーシキヤンプ(BC)支援隊」が集めた支援金で招待。震災から5カ月となる11日の御来光を頂上で迎え、「諦めない一歩、希望の夜明け」を目指す。

富士登山に挑むのは、小中併設小規模特認校の同市立浦戸第2小学校・浦戸中学校の小学4年生と中学3年生らと家族など計35人。

同校は松島湾の入り口にある浦戸諸島の一つ、野々島にあり、生徒26人中20人は学区外の地域から通学する「特認生徒」。震災による津波で、浦戸諸島は全居住地区が浸水、家屋の半数が流失し全壊となった。ただ、生徒は早い段階で高台に避難していたため、全員無事だった。

富士登山は、75歳でのエベレスト再登頂など、数々の冒険に挑んできた三浦さんが「自分が経験の中で得

三浦雄一郎さんと富士登山

被災親子ら 35人が一歩



三浦雄一郎さん(右)とともに富士山を登り始めた子供たち=10日午前、静岡県富士宮市(早坂洋祐撮影)

小5決意「漁師4代目になる」

た「究極の状態で生き抜く勇氣と手段」を一人でも多くの人と継続して分かち合いたい」と企画。

BC支援隊は震災後、寝袋などの物資配布や炊き出しなどに取り組んでおり、6月に炊き出しで浦戸諸島

の桂島を訪ねた三浦さんの次男でモーター元五輪選手の豪太さん(42)が同校の志子田美弘校長(52)と相談し、生徒の参加が決まった。

参加する生徒らは9日朝、塩釜市出身のモーター元五輪選手、畑中みゆきさん(35)らとともに塩釜港をバスで出発。山梨県富士河口湖町の本栖湖青少年スポーツセンターで豪太さんらから登山に関する指導を受け、この日の朝、雄一郎さんや富士山1000回登山を達成している賞川欣伸さん(68)らと合流。午前9時45分に富士宮5合目登山口から登り始めた。

母の鈴木理恵さん(31)と2人で参加した浦戸第2小5年、悠吾くん(10)は富士山へ向かうバスの中で「4代目になる」と突然宣言した。野々島で祖父の後継ぎとして漁師になった父は3代目。島にある実家は津波の被害に遭い、祖母は本土の塩釜市内にある悠吾くんの家に身を寄せている。手作りの旗には「日本一」と書き込み、理恵さんに「島の復興のことをちゃんと書いて」と何度も念押しした。

「島の人々はみんな助け合い、支え合って生きていて、悠吾は島のみんなに育ててもらった。復興って簡単に言えないけど、なんて書いたらいいんでしょうね」。悩んだ末、理恵さんはこう書き込んだ。

「ガンバレ浦戸・野々島、おれの島」。被災者らはこの日、9合目の山小屋に宿泊。11日未明に出発し、頂上を目指す。